

PRP の採血における貼付用局所麻酔剤ペンレステープ® の VAS 値
VAS value of Local topical anesthetic painlesstape ® on PRP blood

○奥寺 元^{1) 2)} 西山 和彦¹⁾

一般社団法人東京形成歯科研究会¹⁾ 王子歯科美容外科クリニック²⁾

○ OKUDERA H^{1) 2)} MISHIYAMA K¹⁾

Tokyo Plastic Dental Society¹⁾ Oji Dental / Cosmetic Surgery, Research & Clinic²⁾

目的

平成 26 年 11 月に新法律・再生医療新法が施行され、PRP、PRF、PRGF 等の血液臨床応用再生材料が第三種に導入され、日常の臨床に注目されている。血液臨床応用再生材料製作においては、採血が基本として行われなければならない。しかし、元来静脈注射や採血は積極的に歯科診療では行われていない現状があり、採血時の患者側の痛みの恐怖心も相成り、術者にも抵抗があり、結果的には再生療法が前進しないこともあった。

血液再生臨床応用の採血は 18G の太い針の為、疼痛緩和が不可欠のこととなる。そこで、従来からある注射貼付用局所麻酔剤ペンレス[®]テープ (図 1) (マルホ株式会社) の応用が疼痛の緩和となるかを客観テスト Visual Analogue Scale Test 法 (以下 VAS 法) により測定した。

対象と方法

同意を受けた分析及び協力をする歯科医師と通常 18G 針を使用し採血を行った患者を対象として、注射貼付用局所麻酔剤ペンレス[®]テープを応用した場合と応用しなかった場合で、客観テスト VAS 法により痛みの度合を測定した。これらの研究は後戻り研究として VAS 値を比較検討したものである。

結果

対象年齢 38 歳～71 歳、平均年齢 55 歳男性を対象に注射貼付用局所麻酔剤ペンレス[®]テープ未使用者 (18G 採血針使用) の 11 名の VAS 値は最大値で 7.5、最少値は 3.9 で平均値は 6.23 であった。また使用者 11 名は最大値で 1.4、平均値は 0.58 であった。また、その T-TEST 検定では $P=0.046$ で、 $P<0.05$ から有意な差の結果であった (表 1)。

考察及び結論

元来静脈注射や採血は、歯科診療では積極的に行われてこない現状があり、採血時の患者側の痛みの恐怖心も相成り、術者にも抵抗があった。結果的には再生療法が前進されない現状を踏まえて、本研究の痛みの度合いを把握することは意義深かった。VAS 法の測定結果では、有意の差で、注射貼付用局所麻酔剤ペンレス[®]テープを応用した場合、痛みをほとんど感じられなく 18G の太い針でも抵抗がなく使用できた。今後採血においては患者の痛みに対する緩和策として有効な処置と考えられる。

表 1

YEAR	SEX	NEME	UN USE	USE
68	♂	H.O	3.9	1
38	♂	T.O	5	0
45	♂	K.N	8.9	0.1
55	♂	M.S	6.3	0.3
48	♂	T.K	5.9	0.2
55	♂	T.W	6	0.5
55	♂	A.M	7.5	1
71	♂	N.T	5.9	0
45	♂	Y.O	5.2	0.6
50	♂	Y.K	5.1	1.4
71	♂	N.Y	6.5	1.3
601			66.2	6.4
100.1667				
11			11	11
71			8.9	1.4
38			3.9	0

P= 0.049649
P < 0.05

図 1



参考文献

- 1) 渡辺 晋一:臨床医薬 29 (6) 571 (2013)
- 2) 日東電工: (静脈留置針の疼痛緩和に関する臨床成績集計)
- 3) 奥寺 元 :インプラントの痛みに関するVAS の評価日本口腔インプラント会誌平成 3 年 10 月 5 巻 1 号